

一人でも慌てない!

「こんなときどうする?」の処方箋85



医師たるもの、専門分野を問わず、当直、訪問診療、僻地診療などでは自分自身で対応しなければならないことが数多くあります。また、自分の患者さんの不調に対応できなかったり、患者さんからの何気ない質問に答えることができないのは医師として心苦しく思うものです。

この増刊号では「すべての医師が対応すべきこと」からちょっと背伸びをして、一回り成長できるような内容を目指しています。ちょっとデキる初期研修医を目指している医師、初期研修を終えてもう一回り総合力を身に着けたい医師、当直で自分の専門分野以外の領域の診療に困っている医師、専門医にいつでも相談できる環境ではない施設で働いている医師、訪問診療や僻地診療で分野を問わず診療しなければならない医師、外来や病棟で自分の患者はできるだけ自分で診療したいと思っている医師たちに役立つように、実地で使える内容を幅広く揃えました。

病棟、一般外来、救急外来、往診など、さまざまな状況で起こりうる「困ったこと」をピックアップし、消化器、循環器、呼吸器、神経、内分泌、腎臓、感染症、整形、皮膚科、眼科、耳鼻科など領域を問わず取り上げ、自分1人でもしておかなければならないことをクリニカル・クエストとして抽出して企画されたこの増刊号は、必ずや読者の皆様の診療をサポートしてくれると信じています。

今回はさまざまなシチュエーションで役立つように、飛行機内で「お医者様はいらっしゃいますか?」というアナウンスに対してどのような対応をすべきか、などにも言及するほか、今さら聞けない血液ガスの読み方、ちょっと知っておきたい妊婦や授乳婦への投薬にもふれています。軽視されがちなアルコール依存症やポリファーマシー、不定愁訴への対応や転倒患者で注意すべきことにも踏み込んでおり、この一冊で日常診療の多くをカバーできると考えています。

熱意をもった先鋭の執筆陣の努力により、基本を外さないようにしながらも、陥りやすいピットフォールや臨床的に問題となる点に可能な限り言及し、読者の皆様がスキルアップできる内容に仕上がったと自負しています。日々の診療にお役立ていただけたならば、企画者としては望外の喜びです。

上田 剛士 (洛和会丸太町病院 救急・総合診療科)